校長室だより

R6.6.25　Vol.12

深イイ話

４年生以上の子供たちが、水泳部活動に参加しています。どの子も一生懸命、活動に取り組む姿に嬉しさすらこみ上げます。そんな中、４年生の男の子も２５ｍ完泳目指して、日々、頑張っています。

身体の使い方を覚えるまでは、マンツーマンで指導することが多いのですが、ある日、プールに行くとその男の子が近寄ってきて、元気な声で、

「校長先生、今日もしっかり僕をしばいてください！！」「え？えっ？えっとぉ…校長先生、あなたのこと、一度もしばいたことないんだけど…。」「え？あれ？あ！間違いました！しごいてください！。」「よし！まかせろ！」水の中、二人で爆笑しました。今日も元気に子供たちは水しぶきをあげています。

（あら？深イイ話になってます？笑）

何だと思う？鯉です！

５月の下旬だったでしょうか。1.2 年生の生活科学習、町たんけんに同伴しました。道すがら、メダカや金魚を飼育しているお家があり、それを見せていただきました。立派なランチュウが泳いでおり、担任の先生が、「この金魚の名前分かる人！おる？」と聞くと、「うん！分かる！鯉」「ちがうよ！メダカで！」そんな声が飛び交い、思わず笑ってしまいました。担任の先生が、「ランチュウって言うんよ。」「ふ～ん！」何気ない会話の一コマですが、こうやって子供たちは言葉を学習します。「かわいいね！」だけで終わっていたら、ランチュウという言葉との出会いはなかったでしょう。しっかり言葉をかけてやること、これからも大切にしていきたいですね。

余談ですが、ある子が、私の姿を見つけて「あ！校長ちゃん！」「…校長先生って言うんだよ！それも覚えてね！」お願いしておきました。(笑)

四方山話真穴 ver.　其の十二(私がアナログにこだわるわけ…)

私は決してデジタル否定派ではありません。日々の生活の中でたくさんの恩恵を受けています。ですので、ICT を活用した教育を進めることにも賛成です。が、小学生という発達段階でデジタルを使い過ぎることには、違和感を持つのです。

私はアウトドア遊びや釣り好きが高じて、休日にはよくカヤックで釣りに出かけます。パドル一本で海原に漕ぎだす高揚感はいつも新鮮です。まだ薄暗いうちに海に到着し、準備万端整えて、海に漕ぎ出していると、空が徐々に白んできます。山の稜線から太陽が少しずつ顔を出し、海が輝き始めます。新緑が山を彩り、その生命感はまるで山全体が生き物かのよう。ときにイルカが私のカヤックの横を泳いでいく！なんてボーナスがある日も！私の五感全てがフル稼働し、我が心のオーケストラが全力で感動を奏でる自然との一体感。と同時に起こる自然への畏怖の念。うまく言えませんが(書けませんが)この感動はデジタルでは決して味わえない！VR技術(素晴らしい技術ですよ。)がいかに進歩しようが、アナログの本質である自然には太刀打ちできない！と思うんです。たまたま私は、それが釣りという機会ですが、子供たちには、しっかり自然を感じさせてほしい！そう思います。自然の中で、しっかり見て、聞いて、触って、匂って、食べて。遊びに連れて行ってくれと言っているわけではなく、自然を自分の肌で感じる機会をたくさん持ってほしいと思います。真穴は海も山もすぐそばにありますから、そういう意味では恵まれた環境だなとありがたく思っています。

（潮風を感じる、みかんの成長と共に山の変化を感じる、荒れた海の怖さを感じる…）

人間は自然の一部です。(だと私は考えています。)いろいろな捉え方がありますが、デジタルとは、再現性のあるもの、アナログとは、一つの方向に向かって(生物であれば、死に向かって)変化し続けるものだと思います。リセット一つで甦る命ではなく、一つしかない命だからかえがえのないものなのです。その感性はやはり自然が育ててくれるものだと感じます。